

大雪山系の高山帯におけるダイゼン *Pluvialis squatarola* の記録嶋崎 太郎¹⁾Record of Grey Plover *Pluvialis squatarola* in the alpine zone of the Daisetsu mountain range, central Hokkaido.Taro SHIMAZAKI¹⁾

ダイゼンは、ユーラシア北部および北アメリカ北部で繁殖し、ヨーロッパ、アフリカ、インド、東南アジア、オーストラリア、南北アメリカの海岸で越冬する大型のチドリ類で、日本では旅鳥として春と秋に見られるほか、本州中部以南では越冬することもあるとされる（桐原ほか 2000）。北海道においても春秋の渡り期に河口や沿岸湖沼等で見られ、内陸で確認されることは稀である（河井ほか 2003）。

筆者は2013年9月8日13:30頃にニペソツ山登山道の高山帯において、ダイゼン幼鳥1羽を観察・撮影した。高山帯における本種の記録は貴重であるため、ここに報告する。

ニペソツ山は、大雪山系の東大雪最高峰（標高2,013m）で、山頂は新得町と上士幌町の境に位置している。登山道は音更川の支流十六の沢からのルートと、幌加温泉からのルートがあり、両ルートは前天狗頂上付近で合流する。その後、天狗岳の東側を通り、ニペソツ山の山頂へと向かう。

観察地点は、天狗岳の東側斜面の礫地（43° 28′ 03.42″ N, 143° 02′ 32.33″ E）で、標高は約1,840mである（図1）。観察地点の植生は、ハイマツ *Pinus pumila* やウラシマツツジ *Arctous alpinus*, ガンコウラン *Empetrum nigrum*, イネ科草本 *Poaceae* sp. 等がモザイク状に群生していた。

観察個体は、初め筆者から約300m離れた斜面において時折地面を啄みながら歩いて移動していたが、10分程して飛び立ち、筆者から約20mの距離に降り立った（図2）。その後、1分程で再び飛び立ち、南へ飛去した。



図1. 観察地点（カンミール3Dを使用して作成）
Fig.1. Location of observation

ダイゼンの成鳥夏羽は、顔、胸、腹は黒く、体上面は白く、黒斑が散在する。成鳥冬羽は頭部からの上面が灰褐色で白色斑があり、腹は白い。幼鳥は成鳥冬羽に似るが、上面の黒と白の模様がはっきりしており、胸から脇にかけて淡褐色の縦斑がある。また、ムナグロ *Pluvialis fulva* は本種と類似するが、本種は全体的に白みが強く、飛行時に翼下面の腋羽が黒く、腰が白いことでムナグロと識別できる（桐原ほか 2000, 真木・大西 2000, 氏原・氏原 2004）。

観察個体は、飛行時に翼下面の腋羽が黒く（図3）、腰が白い（図4）ことからムナグロではなく本種である。また、上面の黒と白の模様がはっきりしており、胸から脇にかけては灰褐色の斑があることから、本種

1) 株式会社エコニクス 〒004-0015 北海道札幌市厚別区下野幌テクノパーク1-2-14
Econixe Co., Ltd., 1-2-14, Techno Park, Shimo-noppo, Atsubetsu-ku, Sapporo-shi, Hokkaido, 004-0015, Japan.



図2. 観察個体
Fig. 2. Observed individual



図3. 観察個体（腋羽は黒い）
Fig. 3. Observed individual (Axillaries were black)



図4. 観察個体（腰は白い）
Fig. 4. Observed individual (Rump was white)

幼鳥の特徴と一致する。

本種はこれまで大雪山国立公園内や上士幌町では確認されておらず（川辺 2003, 川辺 2009, 川辺 2010），今回の記録が初記録となる。なお，本種と同様に河口や海岸湖沼等に生息するシギ・チドリの仲間では，2007年9月11日にメダイチドリが，2009年8月12日にオバシギが大雪山系の高山帯において記録されている（磯・片山 2009, 層雲峡ビジターセンター 2009）。高山帯において鳥類の観察や調査を実施しているバードウォッチャーや研究者が非常に少ないこともあり，これらのシギ・チドリの仲間が見逃され，人知れず大雪山系の高山帯を通過している可能性がある。

謝 辞

日本野鳥の会オホーツク支部の川崎康弘氏には原稿の校閲をして頂いた。Douglas Braat氏には英文の校閲をして頂いた。厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 磯清志・片山徹，2009. 大雪山の高山帯におけるメダイチドリの初記録. ひがし大雪博物館研究報告, 31:21-22.
- 川辺百樹，2003. 大雪山国立公園鳥類目録. ひがし大雪博物館研究報告, 25:1-49.
- 川辺百樹，2009. 上士幌町鳥類目録. ひがし大雪博物館研究報告, 31:1-16.
- 川辺百樹，2010. 大雪山国立公園鳥類目録補遺. ひがし大雪博物館研究報告, 32:237-241.
- 河井大輔・川崎康弘・島田明英，2003. 北海道野鳥図鑑. 400pp. 亜璃西社, 札幌.
- 桐原政志・山形則男・吉野俊幸，2000. 日本の鳥550 水辺の鳥. 352pp. 文一総合出版, 東京.
- 真木広造・大西敏一，2000. 日本の野鳥590. 654pp. 平凡社, 東京.
- 層雲峡ビジターセンター，2009. 大雪山高山帯におけるオバシギの初記録. 層雲峡ビジターセンターだより, 37:2.
- 氏原巨雄・氏原道昭，2004. シギ・チドリ類ハンドブック. 66pp. 文一総合出版, 東京.

Summary

I observed Grey Plover *Pluvialis squatarola* in the alpine zone of the Daisetsu mountain range, central Hokkaido. This Grey Plover, a juvenile individual, was observed on September 8, 2013, along the Mt. Nipesotsu climbing route (alt. 1,840 m). This is the first record of Grey Plover in Daisetsuzan National Park and Kami-shihoro town.